

あなたも東京民研へ

東京民研部会紹介

部会名・代表者名

2017年度研究員募集

研究員を希望される方は、都教組の各支部・地区協にご連絡ください。

算数・数学

松尾 好樹

子どもの興味・関心を引き出す、創造的な算数・数学授業実践の研究をしています。特に今は、習熟度別授業の問題点を、各小学校現場へのアンケートをもとに研究中です。東京の数学教育が新に子どもたちの豊かな学びとなるよう、一緒に研究し、実践していきたいませんか。

美術

石井 緑

今年度、美術部会はプレ思春期である小学校五年生から、思春期真っ只中の中学校三年生までの作品を中心に持ち寄り、実践の報告や検討をしています。子どもが育つ長い時間の中で、その時期の子どもが精一杯輝く教材は何か、みんな考えていきたいと思っています。

国語

金田一清子

「授業は特定の形式ややり方を外部から与えるものではなく教師自身が創意工夫して行われるもの」文科省の通知の一部です。部会では、「目の前の子どもから出発する授業の創造を」と、実践報告をもとに学び合っています。現場の悩みにも応え若者にも好評です。ぜひご参加を。

社会科

坂爪 邦雄

2016年度、中学校での「子どもたちの未来につながる憲法学習を」の実践報告と、小学5年・6年教科書の比較検討を行いました。次期学習指導要領についてはこれからも批判的検討を続けていきたいと思っています。1月に中学での「税」の実践報告を予定しています。

音楽

四谷 悦子

「学校に豊かな文化を」のテーマの下、年2回公開授業と講座、部員の実践交流を行い学び合っています。作曲家・ピアニストを講師に迎えての公開授業では、豊かな音楽が子どもたちの内面に届き、いきいきと歌う姿を見ることができま。一緒に学びましょう。

外国語

安野 寿美

東京の英語教育は、少人数習熟度別授業や、小学校英語、「英語で英語の授業を」などエリート中心主義にますますシフトしようとしています。

外国語を学ぶ楽しさと意味を子どもも先生たちも取り戻す授業を一緒に考えませんか。Join us!

理科

高鷹美恵子

今年度は、新学習指導要領の改訂に向けて、アクティブラーニングについてや、「審議のまとめ」の理科や生活科の変更点、「中教審」のいう「資質・能力」とは何かについて検討しました。部会は毎月第2木曜日、エデュカス6階の会議室です。小中高の先生で検討しています。

技術科

内田 康彦

福島の原発制御不能から、「技術革新こそが生活を良くする」という神話が崩れました。

今、技術・職業教育が目指す目標が、あらためて求められています。技術科の先生方と一緒に模索していきたいと考えています。

家庭科

谷内 香子

子どもの生活をじっくり見据え、そこからスタートする家庭科の学習。生活現象を社会と繋げ、どうしたらよいのか考える主権者としての生活者を育てる学びへ発展させたいものです。今の教育情勢を交流しながら、授業づくりの研究を進めています。

学校保健

佐々木弘子

今年度から定期健康診断に「四肢の状態」が加わりました。準備不足の中での実施になったため、現場では様々な混乱や問題点が起こってきています。子どもたちのためになる健診とはどうあるべきか、考えていきます。まずは、東京教研などで大いに議論をします。

障害児教育

杉山 敏夫

「特別支援教室」を利用する児童が増え、従来の情緒障害教育の水準維持が困難になってきています。すべての子どもたちに「居場所」としての学校を保障するために、改めて障害児教育の場での実践を深め、多くの人たちと交流・検討したいと、毎月の部会を開催しています。

保健体育

岩崎 明美

保健体育部会では、主に水泳の指導法について研究しています。泳げない子（人）や泳げるけど息が苦しいという子（人）に、どのように教えたから楽に長く泳げるようになるかを、ドル平泳法を軸として、教員を対象とした水泳教室を行い学び合っています。

進路指導

岩井 紀子

「東京の入試制度」とくに都立高校の多様化・特色化がめざすものは何か」「東京の中学・高校教育は子どもたちをどこにもついでいこうとしているのか」など、中等教育全般にわたる問題を具体的な事例・実践を挙げながら学習・交流を行っています。定例会は毎月第4土曜日です。

生活指導

津川 正洋

今年度は「道徳の教科化」にどう立ち向かうかをテーマに道徳部会との合同公開部会を開催。「学びの中の生活指導」を実践テーマに、算数少人数指導や理科の報告を展開中。今後、教育研究全国集会の傾向にあるように、青年教師の実践、中学校のレポーターを待っています。

生活科

高鷹 敦

低学年には、自然や社会（人間）に働きかけ、肌で感じとりながら、認識や思考の土台を築き、感性を豊かにする特有な教育が必要です。

どのような学習内容をどのような学習方法でとらえさせ、表現させるか、ぜひ、一緒に考えていきましょう。

幼年

岩瀬 洋子

次期学習指導要領は、「幼児教育で育みたい資質・能力」を公表しました。公立小学校併設の幼稚園が減り、厳しさを増していますが、次期学習指導要領の内容や幼年期と学童期の関連等、考えることがたくさんありそうです。みなさん、一緒に学習し、実践に生かしませんか。

職場の民主化

西田 昭司

子どもたちが人間として成長することのできる教育を実現するためには、教職員が自由に意見が言えて、民主的に物事が決められる職場が必要です。そんな職場をどうつくっていくのか、どのような努力をしたらよいのか、そんなことを研究しています。

教育条件整備

山木 清孝

子どもたちをとりまく貧困・格差の問題が、ますます深刻になっています。お金の心配をしないで、どの子も笑顔で学べるように、私たちにできることを一歩ずつでも進めていきたい。そんな思いで本部会を運営していきます。たくさんの方の参加をお待ちしています。

学校給食

星名久美子

昨年「給食・食育で子どもが変わる」という題の本を出版しました。今年は「子どもが変わる」という問題を更に掘り下げて、子ども理解を深めていきます。子どもたちの心を引きつける実践や日頃の悩みなど思う存分語りあえる場所です。参加してみませんか。

地域・学校づくり

高木 勝正

学習指導要領改訂や道徳の「教科化」など学校現場を振り回す「改革」はとどまることを知りません。その流れに抗し、子どもたちの発達を保障するため、学校と地域が連携した運動の報告から学んでいます。

現場からの参加をお待ちしています。

平和教育

佐藤 康高

子どもの現状に寄り添い、いのちと人権を尊重する平和学習・平和教育は現場ではさまざまに取り組まれています。困難はあっても大いに実践を交流し、「戦争できる国」に突き進む中、新たな実践の流れを作っていくのが部会の役割かと思えます。若い方の参加を期待しています。

道徳（心の教育）

矢澤 正道

特別の教科「道徳」2017年小学校教科書採択。18年小学校本格実施、中学校教科書採択。検定教科書を使い、評価も！国が決めた価値観を押し付ける道徳は実践したくはない。しかし、「教科書通り」と押し付けてくることは明らか。私たちの実践をどうつくるかが課題。

ジェンダーと性の教育

天沼 文

この部会は、どんなに参加者が少なくても開いています。議題の中心は「その時々の問題点（教育・憲法・ジェンダー視点から見ても）をどう考えるか」です。子どもを中心に、基本的人権を軸にしています。多方面からジェンダーの観点で意見交流をします。

文化活動

磯崎 四郎

学級や学校で子どもたちが生き生きと生活するためには、子どもたちが主役の素敵な文化にふれることが一番です。でも「時間がない」「実践のしかたがわからない」など悩みはつきません。だからこそ、子どもたちを笑顔に変える実践やヒントを、みんなで考え、交流しませんか。

教育評価

阿原 成光

評価は教育の要です。だから、攻撃の最初が戦争への一里塚「勤評」でした。学力保障の評価として東京からも始めた「到達度評価」は差別、管理の「観点別評価」に変質しました。いま、変革の時！子らのため仲間募集の師走かな。ぜひ一緒に！

2016年度

東京民研・総括集会

次期学習指導要領や道徳の「教科化」など、教育はますます大きな課題を抱えています。これらの課題に取り組むために、今年度の研究・実践を総括し確認していきましょう。

日時 3月26日（日）
午前・午後

会場 エデュカス東京
4階会議室